

## 1-1 日本とその周辺の地震活動（2014年11月～2015年4月）

### Seismic Activity in and around Japan (November 2014 - April 2015)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺でM5.0以上の地震は65回、M6.0以上の地震は11回発生した。このうち最大のもは、2015年2月17日に三陸沖で発生したM6.9の地震である。また、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（M9.0、最大震度7、以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ）の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2014年11月～2015年4月のM5.0以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

また、2000年1月～2015年4月の東海から四国にかけての深部低周波地震の震央分布を第1図(c)及び(d)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

#### (1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2015年1月9日03時42分に根室地方北部の深さ126kmでM5.5の地震(最大震度4)が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北北東－南南西方向に張力軸を持つ型であった。

#### (2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2015年2月17日08時06分に三陸沖でM6.9の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震により津波が発生し、岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で27cmなど、北海道から岩手県の太平洋沿岸で微弱な津波を観測した。また、この地震の発生後、この地震の震央周辺では地震活動が活発となり、20日13時25分にM6.5の地震（最大震度3）が発生するなど、最大震度1以上を観測する地震が2月28日までに12回発生した。

今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生したM5.0以上の地震は24回、M5.5以上の地震は9回であった。

#### (3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2014年11月22日22時08分に長野県北部の深さ5kmでM6.7の地震（最大震度6弱）が発生した。この地震は地殻内で発生し、発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。この地震により、負傷者46人、住家全壊77棟、住家半壊137棟などの被害を生じた（2015年1月5日現在、総務省消防庁による）。

#### (4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2015年2月6日10時25分に徳島県南部の深さ11kmでM5.1の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は地殻内で発生し、発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

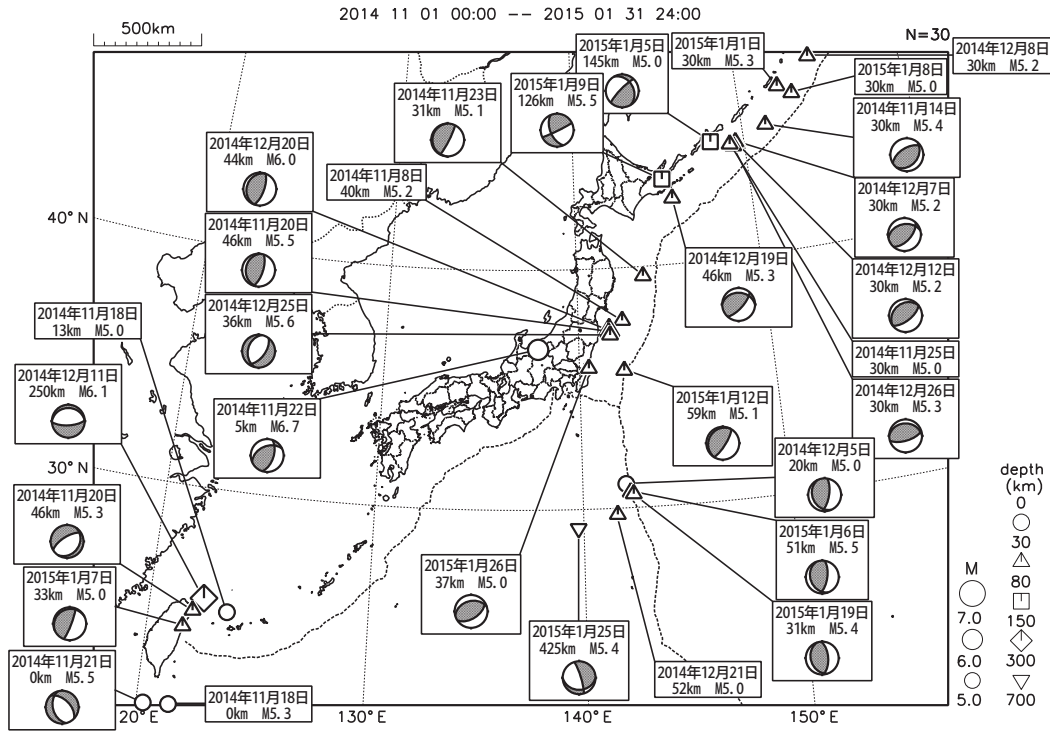
2014年11月～2015年4月に九州地方とその周辺では、M5.0以上の地震は発生しなかった。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2015年4月20日10時42分に与那国島近海でM6.8の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は南北方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震の発生後、同日20時45分にM6.0の地震（最大震度3）、20時59分にM6.4の地震（最大震度2）が発生した。

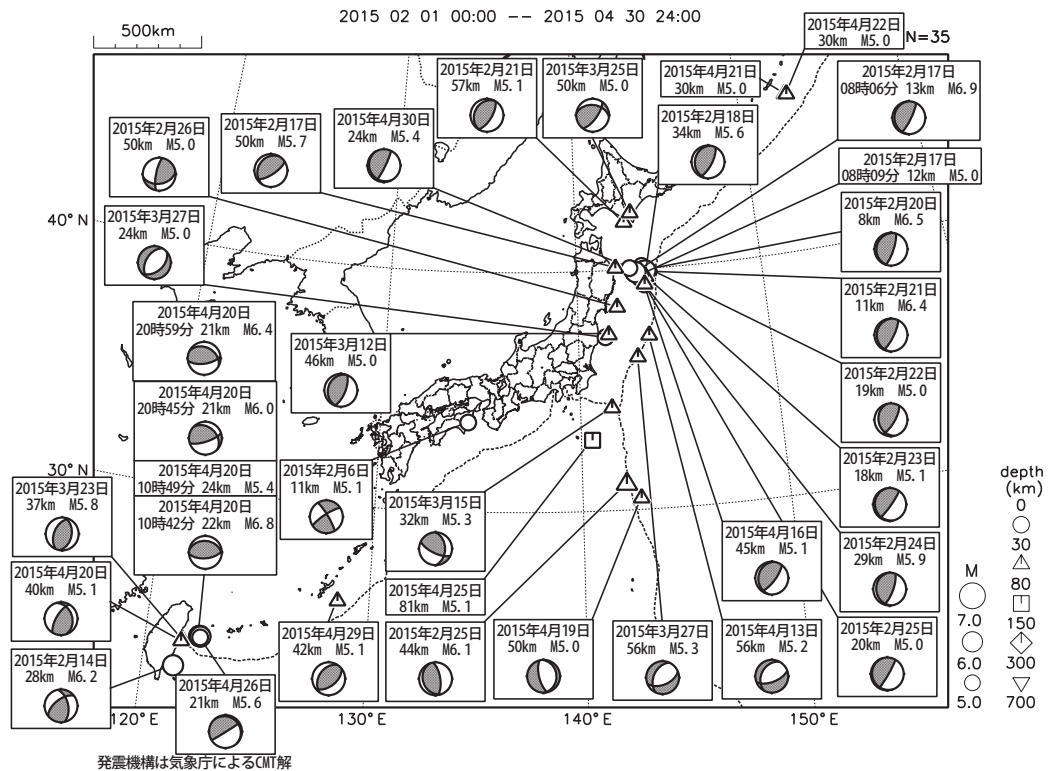
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県及び神奈川県温泉地学研究所、気象庁のデータを用いて作成している。また、IRIS の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

日本とその周辺の地震活動 (2014年11月~2015年1月、 $M \geq 5.0$ )



第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2014年11月~2015年1月、 $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km) .  
 Fig.1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2014 - January 2015,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$  km).

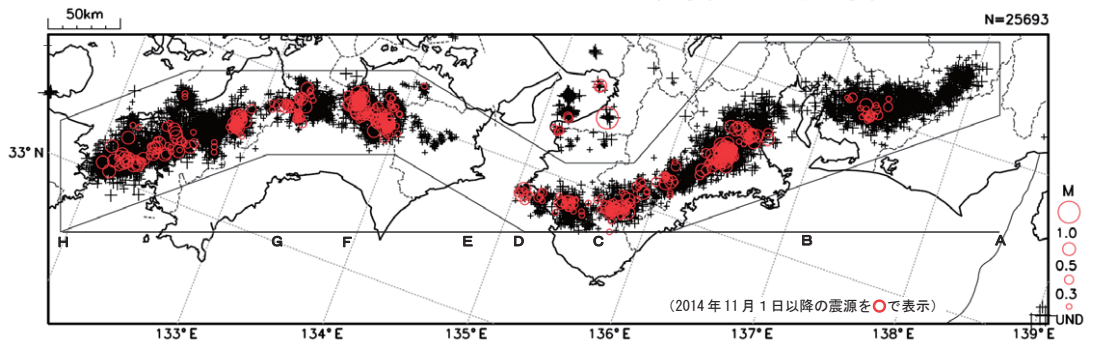
日本とその周辺の地震活動 (2015年2月~4月、 $M \geq 5.0$ )



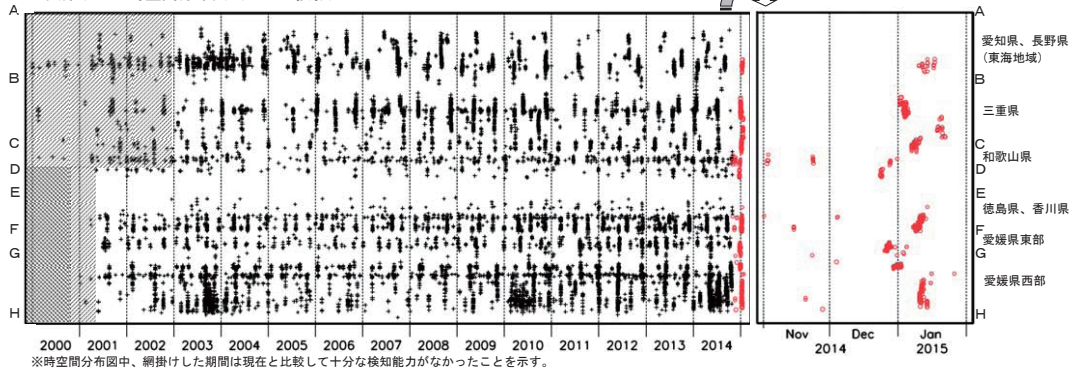
第1図(b) つづき (2015年2月~4月、 $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km) .  
 Fig.1(b) Continued (February - April 2015,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$  km).

深部低周波地震活動 (2000年1月1日～2015年1月31日)

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



上図矩形内の時空間分布図 (A-H 投影)



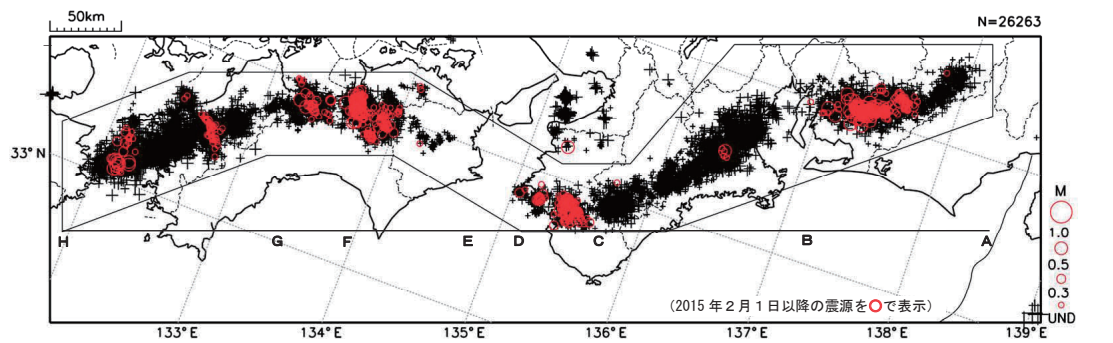
※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

第1図(c) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動 (2000年1月～2015年1月, 深さ $\leq 60$ km) .

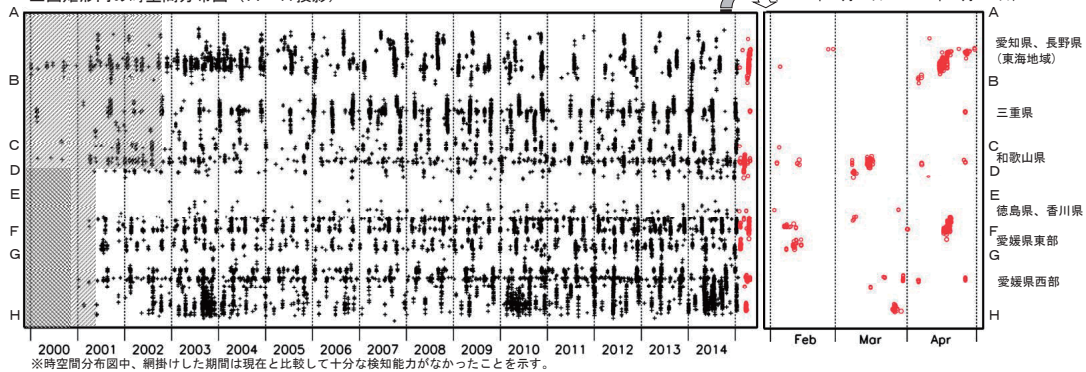
Fig.1(c) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (January 2000 - January 2015, depth  $\leq 60$  km).

深部低周波地震活動 (2000年1月1日～2015年4月30日)

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



上図矩形内の時空間分布図 (A-H 投影)



※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

第1図(d) つづき (2000年1月～2015年4月, 深さ $\leq 60$ km) .

Fig.1(d) Continued (January 2000 - April 2015, depth  $\leq 60$  km).